

おかうえ れいはいどう
 丘上の礼拝洞

まちのひのきをてんぼうくうかん 展望空間
 - 街と陽を望む展望空間 -

コンセプト - 「一筋の光」の元で平和を祈る人々

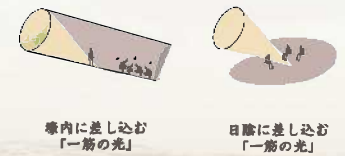
敷地は、海軍壕公園。
 第二次世界停戦末期に、激しい戦場となった地である。

戦争当時、壕に逃げ込んだ人々は
 わずかな光が差し込む漆黒の中、
 外の平和を祈っていた。

そんな当時の平和への願いは
 今日もなお、記憶と記録とともに人々に
 受け継がれている。

そこで今回、
 壕内に差し込む「一筋の光」を
 日陰に差し込む「一筋の光」と見立てた
 街の平和を祈る礼拝空間を提案する。

「一筋の光」の元に祈りが集い、
 明るい街が形成され続けられる未来に思いをはせる場となる。

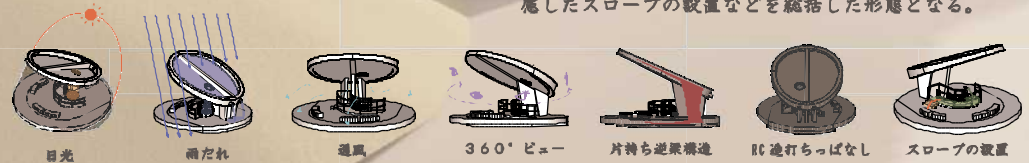


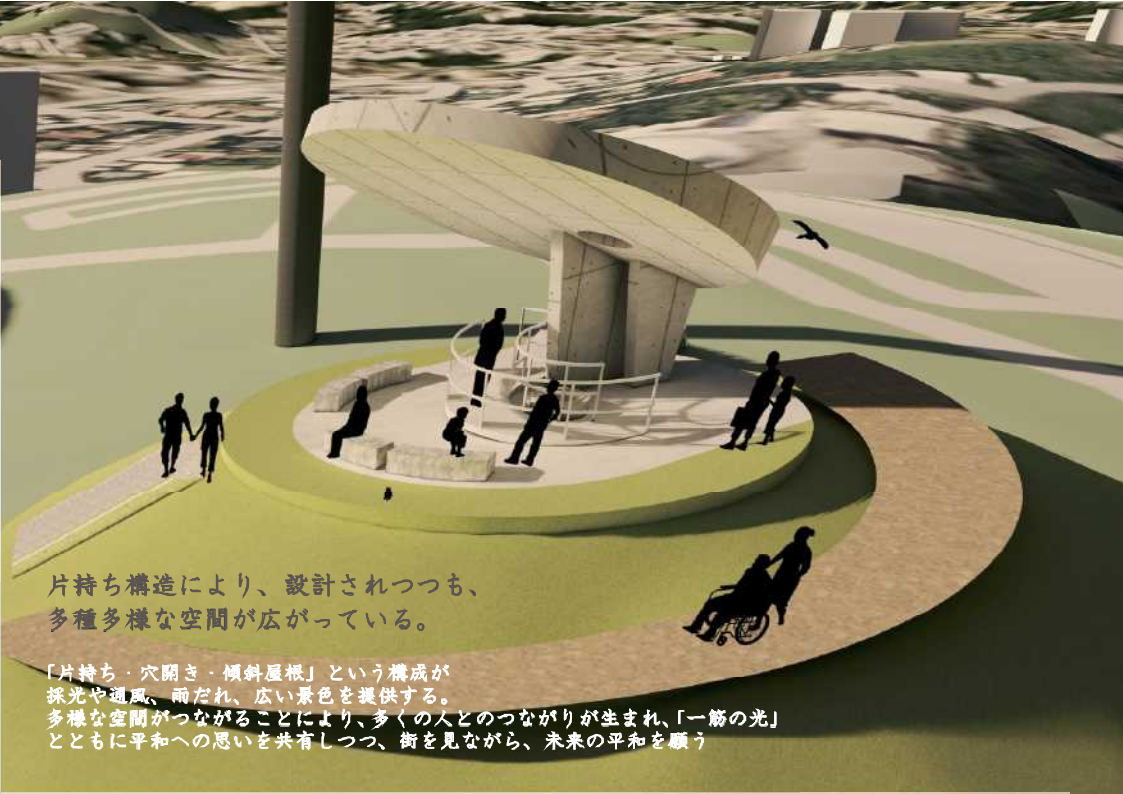
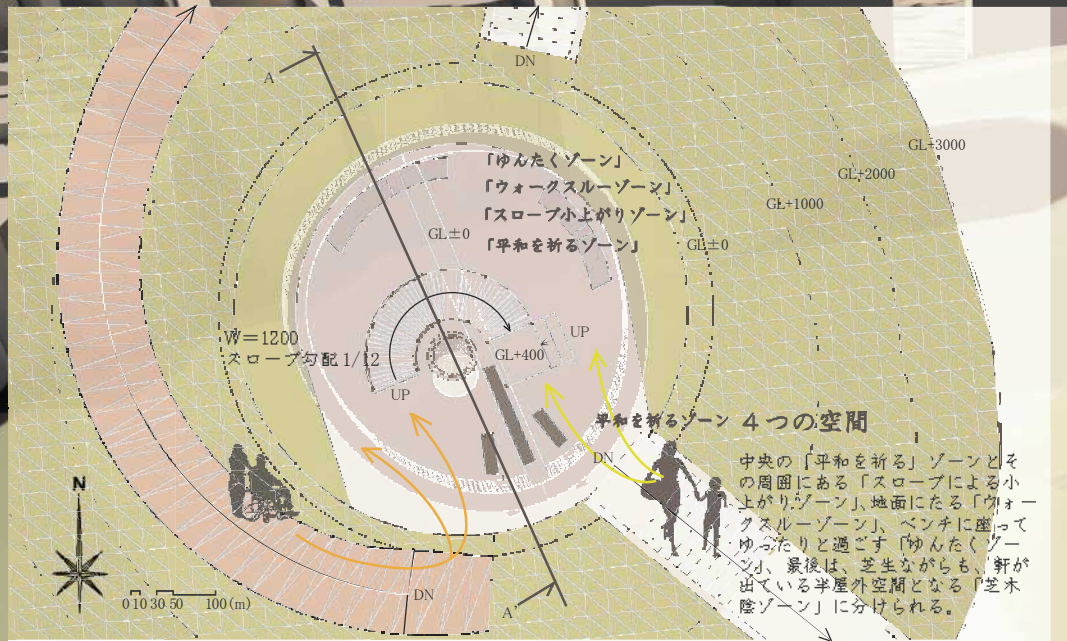
ダイアグラム - 丘の上に「一筋の光」をつくる円形かつ穴の開いた片持ち勾配屋根



6月23日の南中高度87.2°を意図的に。

中心に開いた開口部には、日差しが差し込み、地面に
 日が落ちる。夏至の日である6月23日の南中高度に
 達すると地面のガラス盤と日差しが重なる仕組みを
 目指す。その他、環境的操作用として、雨だれや、通風、
 360°広がる景観、片持ち屋根の耐久性、装飾のない
 造形によるメンテナンスのしやすさ、老若男女に配
 慮したスロープの設置などを総括した形態となる。

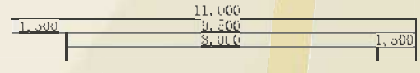




構造計画

部材は県内生産のものを採用する。柱の少ない展望空間を目指すべく、片持ち梁の構造とする。太い梁（H：450）からの景観性を配慮するために逆梁とする。

梁のスパンは長手方向が11m 短辺方向が8mある。

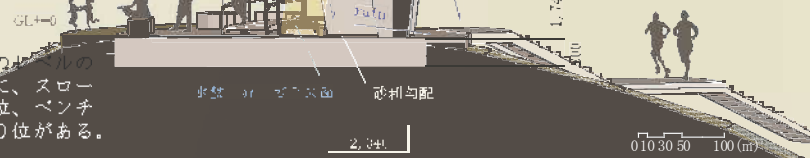


9号筋 GL+0,240

レベル差のある
Miss Joining

展望の多様性を創出

4つの空間により、4点のレベルの遠く景観が生まれる。また、スロープに立つ高位置、壁に立つ位、ベンチに座る低位、芝生に座る0位がある。



2つの動線

8/20 総量約3
床中高度：87.2'

本来造成されている階段とスロープの利用者の動線を配慮した平面計画とする。南側に設けられているスロープに通ずる空間は、『丘上の礼拝堂』中心に設けられているスロープ空間にスムーズにつながる平面計画としている。また、北側と南東側に設けられている階段には、階段や、広い芝生空間につながるよう計画している。スロープにはH：1100の手すりが。



1：スロープの下から見た丘上の礼拝堂



3：屋根下に広がる3エリア（高・中・低）



5：スロープ小上がりから見える景色



2：スロープの下から見た丘上の礼拝堂



4：屋根下に広がる3エリア（高・中・低）



6：スロープ小上がりから見える景色